

群馬県内の電子部品・デバイス・電子回路製造業の動向調査

群馬経済研究所 主任研究員 半田浩己

調査のポイント

「デジタル化」や「5G」、「自動運転」などに必要不可欠な半導体をはじめとする電子部品への需要が高まっている。そこで群馬県における電子部品・デバイス・電子回路製造業の位置付けや特徴について、統計データを中心にアンケート結果も併せて分析した。

要約

- 2019年の県内における電子部品・デバイス・電子回路製造業の製造品等出荷額は、2059億円で全国33位の規模である。過去10年の推移をみると、09年以降、事業所数および従業者数はやや減少傾向にあり、製造品等出荷額は概ね横ばいで推移している。
- 群馬県産業連関表によれば、県内の電子部品・デバイス・電子回路製造業は、生産するための原材料を県外からの移入や輸入に大きく頼っており、出来上がった生産物も、県外への移出や輸出に向けられる割合が高い。
- 県内の同業界へのアンケートでは、現状の課題として「受注が不安定」と「原材料不足・調達難」が最も多く、次いで「人材不足」が挙げられた。
- 今後の見通しとして、電子部品の需要が「拡大する」とした企業は60.0%に上り、一方、需要が「縮小する」とした企業は16.7%にとどまった。「拡大する」理由としては「デジタル化の進展」、「縮小する」理由としては、「新型コロナの長期化」を挙げる企業が多かった。